

令和 6 年 5 月 24 日現在

機関番号：35413

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K24243

研究課題名（和文）低出生体重児と家族のQOL向上と多職種連携継続ケアの推進のための養育手帳の開発

研究課題名（英文）Parenting Record Handbook: The Needs of Mothers Raising Low Birth Weight Infants

研究代表者

友安 由貴子（Tomoyasu, Yukiko）

広島国際大学・看護学部・助教

研究者番号：00745953

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、低出生体重児と家族（母親）のニーズに対応した育児手帳作成のために、低出生体重児の母親に、育児への困難や悩みに基づく育児手帳のニーズを調査した。母親は、育児手帳に、心理的負担の軽減と産後の心と身体のケアを助けるピアサポートの促進、育児困難への相談先や信頼できる情報源の掲載を求めた。母親は、育児手帳に、低出生体重児の発育の指標の掲載と記録、育児記録、出生時からの子どもの情報管理、多職種の情報共有ツールとしての機能を求めた。本研究結果は、低出生体重児をもつ母親の育児手帳ニーズを、低出生体重児に対応した母子保健サービスの継続的保証ツールと示唆する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

母親にとって早産はトラウマ的な出来事であり、妊娠期からの早期育児手帳提供による母親の心理的負担の軽減ニーズや産前の長期入院による体調不良や、育児による心身の過重負荷は、母親の情報入手困難をもたらしていた。オンラインリソースは、情報の信頼性に懸念があり、質の保証も不確かである。母親は、児の発達やケア、サポート情報の入手に苦労している。一方、LBH掲載のLBWIの合併症リスク・発育等、公的助成や相談機関の掲載は、母親の知識・情報活用を促進し、母子のQOLを向上させている。本研究結果は、低出生体重児をもつ母親の育児手帳ニーズを、低出生体重児に対応した母子保健サービスの継続的保証ツールと示唆する。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the necessity for a parenting record handbook that is specifically tailored to the needs of low birth weight infants (LBWIs) and their families, especially mothers. The mothers required the promotion of peer support that assists the alleviation of mental burden and postpartum mental and physical care, as well as the publication of counseling service counters and reliable information sources for parenting difficulties in the parenting record handbook. The mothers required the publication and recording of the growth indicators of LBWIs, parenting records, information management of children since birth, and for the handbook to function as a multidisciplinary information sharing tool. The results of this study suggest that mothers with LBWIs require a parenting record handbook that can provide comprehensive maternal and child health assurance, starting from pregnancy, to resolve childcare difficulties for LBWIs, as well as mental support.

研究分野：小児看護学

キーワード：低出生体重児 NICU退院後 母親 支援 フォーカス・グループ・インタビュー

## 1. 研究開始当初の背景

毎年、世界で約 1,500 万人が早産で生まれている。日本だけでなく、世界においても、周産期医療の進展と医療体制の整備により、生存率が飛躍的に向上している。超低出生体重児の発達は、神経学的障害を認めない場合でも、健康児の平均を下回っており、在胎期間が短いほど、発育のキャッチアップ率が低い。低出生体重児 (LBWI) をもつ母親は、正期産児をもつ母親に比べ、育児不安や抑うつリスクが高い。LBWI と母親への支援の多くは、内容や時期が限られており、母子健康手帳のような多種専門職による母子保健サービスの継続的保証ツールとなっていない。母子健康手帳は正期産児に対する発達評価と育児情報で構成されているため、一部の自治体や医療機関は、LBWI のための育児手帳 (リトルベビーハンドブック: LBH) を作成し活用している。LBH には、LBWI の成長/発達、育児とケアの情報、同様の経験を持つ母親からの LBWI の母親/家族へのメッセージが含まれている。LBH 活用の母親は、子どもの発達の見通しを獲得し、子育ての不安や孤立を軽減している。LBWI の在宅ケアを支援するための公共サービスの準備が不足している中で、「LBH」が果たす役割は素晴らしいと期待されている。

## 2. 研究の目的

LBH をさらに改善するためには、LBH を使用していない母親の育児の悩みや問題に基づいた LBH へのニーズ調査が必要である。そのニーズは、LBH に新たな情報や視点を加えると期待できる。本研究は、LBWI と母親のニーズに対応した育児手帳作成のために、LBH を利用していない LBWI の母親に、育児への困難や悩みに基づく育児手帳のニーズを調査した。

## 3. 研究の方法

A 県の LBWI の親の会の代表者に、対象者の選定基準・除外基準に基づき、対象候補者の紹介を依頼した。研究参加の同意を得た参加者に、フォーカス・グループ・インタビューを行った。COVID-19 感染予防のため、フォーカス・グループ・インタビューは、WEB 会議システムを用いて実施した。フォーカス・グループ・インタビューの日程調整が困難な場合は、電話による個別インタビューを行った。インタビューの内容は、NICU 退院後の育児で困ったことや対処法、希望する支援と低出生体重児用育児手帳 (育児手帳) への要望であった。

## 4. 研究成果

研究対象者は、NICU 退院後の LBWI を養育している母親 20 名であった。母親は 30 歳代 60%、核家族 95%、就労者 60% であった。LBWI は  $2.75 \pm 0.35$  歳で、出生体重  $1417.50 \pm 152.06$  g (出生体重 1000 g 未満は 40%)、出生週数  $31.25 \pm 1.06$  週、NICU 入院期間  $78.75 \pm 14.10$  日であった。保育園児 35%、幼稚園児 10%、療育センターの利用 20%、療育手帳の取得は 10% であった。フォーカス・グループ・インタビューおよび個別インタビューの分析結果は、77 のサブカテゴリー、38 のカテゴリー、8 のコアカテゴリーを抽出した。コアカテゴリーは【 】、カテゴリーは《 》、サブカテゴリーは      で示す。提出確認 LBWI の発育状況と母親の困難感、妊娠から、LBWI の出生、NICU 入院と退院から現在に至るまでの過程で構成された。育児手帳へのニーズは、これらの過程の内容に基づく支援ニーズによって構成された。育児手帳への母親のニーズは、【心理的負担の軽減】と【産後の心と身体のケア】を助ける【ピアサポートの促進】と【育児困難への相談先や信頼できる情報源】であった。また、育児手帳に対し、LBWI の現在と将来の健康における【低出生 体重児の発育の指標】、【育児記録】、【出生時からの子どもの情報管理】の重要性を指摘し、【多職種の情報共有ツール】としての機能を求めた。

母親は、LBWI の出産に衝撃を受け、LBWI への自責に苦しみ、LBWI について学ぶ機会やピアサポートの不足に苦悩していた。母親にとって早産はトラウマ的な出来事であり、妊娠期からの早期育児手帳提供による母親の心理的負担の軽減ニーズは、新たな知見であった。この研究のもう一つの新たな知見は、産前の長期入院による体調不良や、育児による心身の過重負担は、母親の情報入手困難をもたらしていたことであった。オンラインリソースは、情報の信頼性に懸念があり、質の保証も不確かである。LBWI の親は、児の発達やケア、サポート情報の入手に苦労している。一方、LBH 掲載の LBWI の特徴 (合併症のリスク・発育等) 的助成や相談機関の掲載は、母親の知識・情報活用を促進し、母子の QOL を向上させている。本研究対象者の育児手帳へのニーズと LBH の内容の合致、新たな内容 (育児手帳の早期提供と母親の体調不良への対応) の提起は、育児手帳の内容と活用法に関する改良を示唆する。母親は、育児手帳に、心理的負担を軽減し、産後の心と身体のケアを助けるピアサポートの促進と、育児困難の相談先や信頼できる情報源の掲載を求めた。

母親は、育児手帳に、LBWI の発育指標の掲載、育児記録や出生時からの子どもの情報管理と多職種の情報共有ツールとしての機能を求めた。母親の育児手帳への新たなニーズは、育児手帳の早期提供と母親の体調不良への対応であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 TOMOYASU Yukiko, SOBUE Ikuko	4. 巻 19
2. 論文標題 Parenting Record Handbook: The Needs of Mothers Raising Low Birth Weight Infants	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph19052520	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 友安由貴子、祖父江育子	4. 巻 22
2. 論文標題 低出生体重児と家族のQOL向上と多職種連携継続ケアの推進のための養育手帳の開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 76-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 友安由貴子、祖父江育子
2. 発表標題 低出生体重児を養育する母親への育児手帳へのニーズ
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------